

平成28年度 佐潟周辺植生モニタリング調査（佐潟・御手洗潟）結果概要

1 調査概要

- 佐潟・御手洗潟の植物相や植生分布の現況と経年的な変化を把握し、植物種や植物群落とその生育環境の保護・保全等に資することを目的として調査を実施。
- 調査項目は植物相調査、植生分布調査、群落組成調査で、平成28年4月～平成28年11月に現地調査を実施。

【調査項目および現地調査実施日】

調査項目		現地調査実施日
植物相調査	植物相調査 ・植物リストの作成 ・希少種や特定外来種の分布、生育状況等の記録	平成28年4月8, 14日 5月18, 19, 25, 31日 6月16, 19日
	佐潟周辺における希少種の生育状況調査 ・希少植物等の生育状況調査票の作成	7月27日 10月1, 4, 7日
	植生分布調査 ・空中写真の撮影 ・植生分布図の作成	平成28年8月31日（空中写真撮影） 10月2日 11月23日
植生現況調査	群落組成調査 ・群落組成調査票の作成	平成28年6月23～26日（夏季） 9月22日 10月4, 7日 }（秋季）

2 調査結果

(1) 植物相

- 確認した植物は、佐潟で93科359種、御手洗潟で57科198種であった。
- 水生植物、湿生植物で記録した種数は、佐潟が94種、御手洗潟が50種であった。
- 外来種は佐潟が66種、御手洗潟が58種を確認した。また外来種率は、佐潟が18.8%、御手洗潟が29.3%であった。

【確認種数の記録（APGⅢによる）】

調査区域	2011年*	2016年	全記録
佐潟	91科347種	93科359種	120科669種
御手洗潟	56科171種	57科198種	68科264種

* 2011年の報告書では、新エングラの分類体系により、佐潟は88科347種、御手洗潟は56科171種と記録されている。

- 外来生物法に基づく規制の対象となる種類では、アレチウリ、オオキンケイギクの2種が記録されているが、今回の調査ではアレチウリは確認されなかった。
- 保護上重要な植物は、佐潟で16種、御手洗潟で5種を確認した。
- 保護上重要な植物の確認状況における経年推移は以下のとおり。
▽佐潟：新規確認（ジャヤナギ、エゾミソハギ、コムラサキ）、未確認（ヒナガツリ）

▽御手洗潟：新規確認（ジャヤナギ）、再確認（キクモ、サデクサ）、未確認（アワゴケ）

※新規確認：これまでの植生調査では確認されていない種

再確認：過去の植生調査では記録があるものの、2011年調査では確認されなかった種

未確認：2011年調査は確認されたが、今回の調査では確認されなかった種



【オニバス】



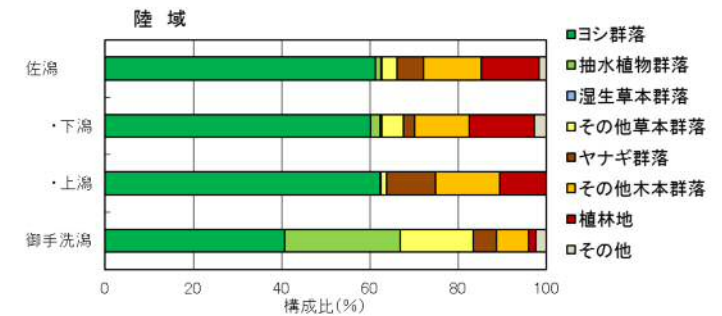
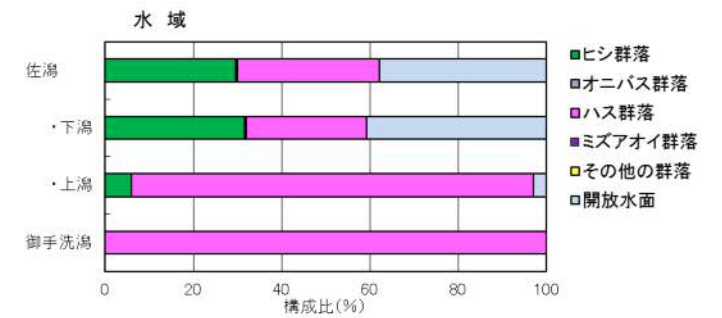
【エゾミソハギ】



【サデクサ】

(2) 植生分布調査

- 佐潟周辺の植生を21の群落及び開放水面、自然裸地、改変地に区分し植生図を作成した。
- 佐潟では水域と陸域がほぼ同じ割合であり、植生は草本群落64.1%、木本群落16.5%、開放水面などの植物群落以外が19.4%であった。
- 水域は約60%が水生植物に覆われ、ヒシとハスが優占した。陸域は約60%がヨシ原でヤナギ群落、オニグルミ群落などの木本群落や植栽樹群などの植林地が多かった。
- 御手洗潟では約65%が水域で、そのほとんどでハスが生育し、開放水面はわずかであった。
- 御手洗潟の陸域は約35%で、そのうちの約40%がヨシ群落であった。



【水域と陸域の群落構成】

(3) 群落組成調査

- 佐潟の陸域では、2011年調査でマコモ群落とショウブ群落であった地点がヨシ群落に移行し、10地点のうち8地点がヨシ群落、2地点がヤナギ群落であった。
- 佐潟の水域では、下潟はハスとヒシが交互に優占する状況がみられ、長期間を通してハス群落またはヒシ群落だけが持続しているところがない。
- 御手洗潟では、陸域、水域ともに2011年調査からの大きな変化は見られなかった。

3 保全方策及び今後の課題

- 現在の水位変動や夏場の水位が、水際のヤナギトラノオやヨシ群落陸域側のハンゲショウの生育に適切な環境を形成していると考えられる。
- 水域は30年前と比較して富栄養化が進み透明度がほとんどなく、沈水植物など水生植物の生育状況には厳しい環境となっている。
- 陸域はほとんど自然的、人為的干渉をうけないことからヨシ群落が安定的に生育し、さらにヤナギ類、エノキ、オニグルミなどが侵入し、適潤化、森林化する方向に植生遷移が進んでいる。

(1) 湿原内に生育する外来種の駆除と保護上重要な植物の保全

- ヨシの密生していない箇所群生するシンワスレナグサや、潟周辺に群生するセイタカアワダチソウは、他の植生に影響を与える箇所などでは除去等の対応が必要と考えられる。

(2) ヨシ群落の発達に伴う植生の単調化の抑止

- 現在佐潟では潟縁をヨシ群落が占めているが、多様な自然環境を維持、創出するためには、積極的に人の手を加えることも必要である。

(3) 沈水植物相の再生

- 佐潟は水深が浅いにもかかわらず、沈水植物の生育に必要な最低光量が確保できないほど水質が悪化しており、これ以上悪化しないように根本的な対策を講じることが必要である。